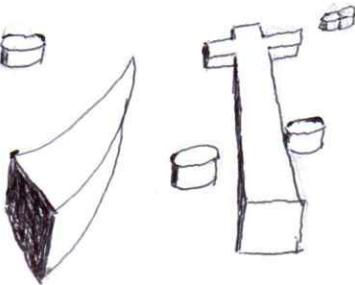
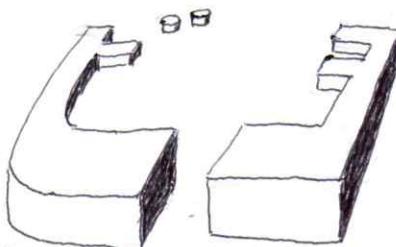
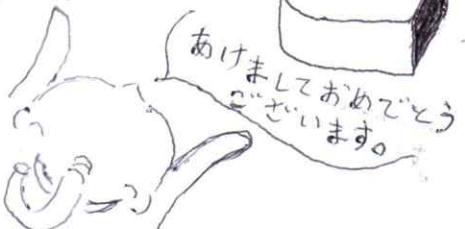


①

2023年12月21日発行 部数 153

来年もよいお年を!

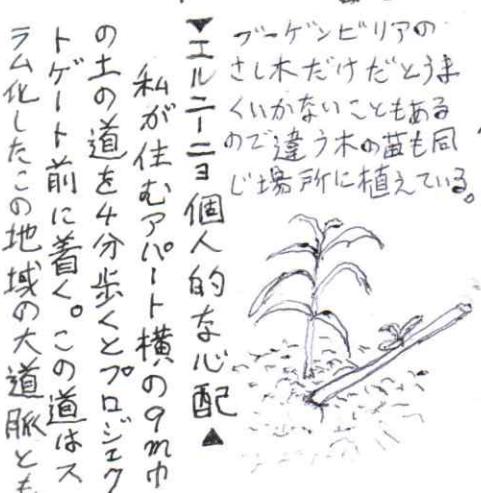
213号



住所 P.O. box 10 Kitengela 00242 KENYA
メールアドレス: sfoarakawa@yahoo.co.jp

こちちは11月はじめにエルニーニョがやってきて、11月からは毎日雨が降っていました。30分から1時間程度で早朝が多く、2度降りもありました。ケニア全国でみるともつとずっと雨降りがひどかったところもあり、甚大な被害をもたらしています。この国はとにかく毎日雨が降りづくと、誰もくインフラが整っていないので、大雨なりトなり被害にあったといえそうです。

ただこのエルニーニョは悪いことばかりではありませんでした。この雨が来る前まではこれからも日照りがつくかもしれません。そこで、それを予想してトウモロコシや豆などの穀物をたくさん倉庫にかくして値を高くしてから売りました。しかし、その予想がはずれ、あわてて放出しているためか、このところこれらの穀物の値段が下落しています。



▼エルニーニョ個人的な心配▲

私が住むアパート横の田ん中的の土の道を4分歩くとプロジェクトゲート前に着く。この道はスマ化したこの地域の大道路とも

度降りもありました。ケニア全国でみるともつとずっと雨降りがひどかったところもあり、甚大な被害をもたらしています。この国はとにかく毎日雨が降りづくと、誰もくインフラが整っていないので、大雨なりトなり被害にあったといえそうです。

ただこのエルニーニョは悪いことばかりではありませんでした。この雨が来る前まではこれからも日照りがつくかもしれません。そこで、それを予想してトウモロコシや豆などの穀物をたくさん倉庫にかくして値を高くしてから売りました。しかし、その予想がはずれ、あわてて放出しているためか、このところこれらの穀物の値段が下落しています。

それで私はエルニーニョの期間、毎朝起きるとすぐ窓ガラス越しに外の景色をながめ、雨降りを確認。泥だらけの道と木橋を想いながらベッドの上に寝る。そして木橋を渡るとそこには狭く泥まみれですぐりやすく搖れる手すりのない板の上をこわごわ少し進む。この橋に少々なれこ

として施設の子どもたちは10月末で学校3学期の授業が終わり、11月12月はする作業があまりなかつたです。ところが連日の雨のおかげで、プロジェクトの畑への豆の種まき、草取りなどの作業を日々、2時間づつできただので、のんびり樂しく働いていました。私のほうは、ここ2年越しの日曜日で、リでプロジェクトの庭木がありケニアの枝のさし木をちこちで枯れてしまつたので、たばかりの幼木をプロジェクトの敷地から探し出して、それ移植しています。

それでも私はエルニーニョの期間、毎朝起きるとすぐ窓ガラス越しに外の景色をながめ、雨降りを確認。泥だらけの道と木橋を想いながらベッドの上に寝る。そして木橋を渡るとそこには狭く泥まみれですぐりやすく搖れる手すりのない板の上をこわごわ少し進む。この橋に少々なれこ

いうべき道で、多くの人々が利用している。この道をふだん水のない川が突つ切つて、水のないところの人々は川底を歩いている。しかし雨がいったん30分も降ると、この川は急流と化す。そのときには川を渡ろうとすると、橋ゲタが70cmの大石2、3個にあまり太くなれば太を置きその上に木の板を敷いて、一人一人渡れチクリがなくよく揺れる

ところに川を渡ろうとすると、橋ゲタが70cmの大石2、3個にあまり太くなれば太を置きその上に木の板を敷いて、一人一人渡れチクリがなくよく揺れる

るまでエルニーニョがつづくと、早朝この橋を渡って落ちてしまふ児童が出ることだろう。行政は動かないだろかうから、自前で立派な橋を作らなければいけないな」とじめに考えてしまった。



▼学校アヒール▲

2023年1月からの学校児童

減少により、授業料収入が大幅に減少し、プロジェクトの財政が圧迫された。それからの私や運営委員は児童減を回復させようと教育内容を充実させようとした。それから児童減を回復した一年だったような気がする。そしてその効果がいよいよはっきり出るのだが、2024年1月の新学年スタート時で、どれだけ児童を増加させることができるかである。この増加させるための最後のひと押しが児童募集のビラ配りになる。

(二) 10月末に学校の

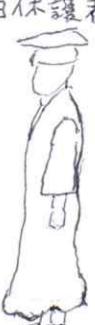
3学期が終了し、来年1月はじめの新学年スタートまでクリスマス休暇にはいるので、児童募集のビラ配りはこのクリスマス休暇中に行なう必要がある。

そこで私や工房のダマリスさんは10月はじめに先生たちと会議を開いて「いかに児童募集をするか」について話しあった。まづ私は「私たちの学校はいま財政難で、来年1月に児童が増加しなければ、先生たちの給料が払えなくなる」とギキを飛ばす。財政難のことは以前から先生たちに伝えていたが、その深刻さを彼らに感じてもう、奮気をうながすために、このようない方をした。するどこの6月に幼稚園年長組先生として雇つたばかりのアグネス先生が10月末の終業式のときに年長組は恒例の卒業セレモニーをするので、その式の3日前にある保護者会PTAへ持つていく。そこの議長(保護者代表)から、終業式の席でこの話をしてもう、保護者たちの了解を得た。このように順序よく事を進める。

そこでこの「ねり歩き」の話をP.T.A.へ持つていく。そこの議長(保護者代表)から、終業式の3日前にある保護者会の席でこの話をしてもう、保護者たちの了解を得た。このように順序よく事を進める。

いよいよ先生たちは自分たちの職がなくなるかどうかの瀕死感があり、とても協力的で、計算でたりない分に自腹を切る。この卒業セレモニーにかかる予算がまだ決まっていないが、それでも牧師さんや他校の校長を

保護者たちは信用してその学校へ子どもを入れたがる」と言つてたのを私は相手に出した。それでは先生、保護者、私たち運営委員が協力して整然とねり歩けば、きっと人々に評価され、入学児童が増える」と私は考えた。この案に賛成したら、他の先生たちも同様だった。



このアヒールはアーヴィングの10月の工房日記

ゲストとして呼んで演説してもう部分でも予算を低くおさえられるため、先生たちがそれらを代りに引き受けてくれた。参加者である保護者や児童たちへその日は昼食を出すのだが、料理の食材買い出し、作り、給事役も彼らがしてくれた。終業式当日はエルニーニョに入いる前だったので雨にたたられることなく、朝10時にはゲートを出発。先頭は学校名ナメをもつた2名の年長児であり、そのあとやはり数名の年長児童たちが子どもの教育に関する権利」を書いたフラカードを名々にもつ。つぎに角帽・ガウンをまとつた卒園児たちがつづく。その他の幼稚園児たちは学校にいのこり。この行列の横ではバイクにスピードカーを載せ、一人の先生がマイクでサイディアフラハ学校のよさ」を沿道のアフラハ学校のよさ」を沿道の人々へ語りかける。このようない行進は珍しいので、歩いている人、道端で野菜を売つてゐる女性、肉屋から飛び出してきた男などが何事がおこつたか?など驚いて足をとめてな



と先生一名は手をつなぎ、20m離れたところからダンスをしてながら私のところまでやってくる。その卒園児の保護者はテントを出ながらダンスをしてやはり私のところまでやってくる。私もダンスをしながら彼らがくるのを待つ。テント内の人々はそれなりに拍手したり歓声をあげたり、ダンスをしたりで盛り上がり上がった。この動作を卒園児が一人一人くり返したが、斯するところはいかにもケニアらしく、私も樂しかった。



彼女は母子感染によるハーレー患者で、そのために発育が遅れ、親を幼いときに失した。面倒見のよくないおばあさんに育てられた学校へもろくすっぽ行かせてもらえず、しまいには、そのおばあさんから見捨てられてしまった。そんな境遇で私たちの施設へはいつてきたので、5年もここにいて成績が上がりず、めったに笑うこともなく、いつも苦虫をうがしたものうな顔をしていた。

1年前に私はサーラはもう18才になるのにまだ小学校7年生で成績もよくない。このまま卒業まで小学校にいるより職業技術訓練をして自立の道をめざしたほうがいいのでは、かといって外部にある訓練学校では、H.I.V.エイズ患者がケアをしながら技術を学ぶことは難か

タマリスさんも、サーラはまだ子どもなので技術習得は無理。小棠8年生になれば、もっと成長して技術を学ぼうという気になるだろから、それまで待ちましょう。」との意見。私は彼女の意見に従うこととした。この卒業試験のよく日、コレタは施設の他の子どもたちと休暇日の日課をこなしていたが、サーラのほうは、エ房で技術を習いはじめた。そしてサーラはクリスマス施設の子どもたちに、「いつも一人さみしく施設に残っていたが、今日はおばあさんとのこころへ帰りたい」と自分のほうから希望。タマリスさんはナイロビにいるサーラの定職のない兄から地方に住むおばさんのことを見き出し、そこへ帰らせた。

■ 築地さんとしてサワディ

いつも「月いちオンライン」と同じ日本で司会をつとめていたたいている築地美津子さんは、9月24・25日とサイデニアフラハヘ泊つていく。築地さんは今度の旅行で他にもケニア、ウガンダとする活動をもつてゐるが、そのあい間に寄つて

いたたいた。

彼女は8年前までケニアに住んでいて、2011年の「サイディア工房立ち上げ」時には非常に手伝っていたとき、ここへ何度も訪問し宿泊もしていた。それで施設の子どもたちにいる。それで施設の子どもたちやスタッフと親しくなつて、タッフにも会いたい。という希望を申しこまれた。それで私はいまではここを離れ別々に暮している卒業生たちを呼び集める。私にしても卒業後の彼女らの近況を知りたかったので築地さんの中しこみがうれしかった。私はこれら卒業生のなかでも、幼ないころから高校卒業するまで施設にいたザワディのことが気にかかっていた。それは築地さんも同様のようだつた。

私はザワディが高校卒業時の4年前に、卒業して自前でケルマの普通免許証を取得したら、サイディア

で「フルドーサーなどの特殊免許証を取得できる学校を支援する」と約束していた。ところが彼女は卒業と同時にキテシケラから40km離れたおはさんのお家で女児を生み、そのままその家でシングルマザーとして子育てをはじめる。免許手続どころの話ではなくなつた。その後も私はおりをみて、ザワディへ特殊自動車学校支援の話を持ちかけたことがあつたが、彼女は普通免許を取る経済的余裕がないよう、この話は流れてしまつた。

築地さんは今回ザワディに会って「彼女の現状について聞いていたよ。そして私が築地さんなりに考えたことをアドバイスしてプロジェクトを去つた。私はそのアドバイスとともに、まだ残つていたザワディ、それにダマリスさんを含めて話しあいをもつ。

ザワディはまだおはさんの家にい

て家政婦の仕事をしてますが、あまり需要がなく、なんとか娘と二人で生活してます。娘の幼稚園費用などどこあらせかちです。

私は「コロナあとぎに二時したまづにいま施設にいる子どもたちを全員親せきのところへ帰して、その親せ

しては」と提案。しかし彼女は「そこらの仕事は私に向いてないで

す」と拒否。そして「マーケットで野菜売りをしたいので、元手になる一万シリング（一万円）を貸して

ほしいです」と逆提案。いままで私たちのプロジェクトはお金の貸し出しをしたことがないし、いま

のサイディアフラハは金欠状態。それで私は来年こちうの資金にメドがついたら考え方みる」と彼女へ返答した。

▼ケニア政府の漠然たる方針▲

10月中旬の早朝、ダマリスさんは事務室にいる私のものへ気色ば

みながらやそきで「ケニア政府は私立の児童養護施設を開

鎖することにしたそうです。こう

いう施設で児童の売買をして、

るところがあるから」と言って私へ突然のこととして仰天。その新聞を

読むひまもなく、デニス氏からも同じ事を電話で語られる。そして

彼は「家にいられない子どもを預つ

てこの間に親せきのところへ帰せる」と言つても無理がある」と政府の方針に疑問をつけていた。